

令和 3 年度 大阪府文化事業（主な実績）

施策の 方向性	事業名	主な実績
A	大阪文化芸術創出事業 （文化芸術活動の助成）	<p>【概要】 新型コロナウイルスの感染拡大により、舞台公演等の文化芸術活動に影響を受けているアーティストや文化芸術団体等の活動を支援するため、公演や作品展示の実施にかかる会場使用料を補助する。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○・第 1 期（R3.9～10 の実施事業） 187 事業に交付 ・第 2 期（R3.11～12 の実施事業） 246 事業に交付 ○音楽、落語、演劇などを中心に補助制度の利用が多く、大阪における文化芸術活動について、目標を上回る支援を行うことができた。 ○利用者アンケートの結果では、制度の条件等について、7 割以上が「満足・やや満足」と回答しており、利用者満足度も高い結果となった。 ○コロナ禍での事業実施は、主催者のためらいが大きくなるが、制度の後押しにより心理的な安心感が得られた。また、金銭的支援により演出や質の充実、配信の実施などクオリティの向上につながったとの意見があり、文化芸術活動の維持・質の拡大に寄与できていると思われる。 ○第 1 期、第 2 期ともに予算額をはるかに上回る申請があり、交付決定率としては、約 50%程度に留まった。これらの状況や関連団体等からの意見も踏まえ、次年度事業としては、予算規模を 2 倍に拡充する予定。また、制度内容は基本、現行どおりとするものの、申請手続期間・事業対象期間については、長くする方向で検討をすすめる。 <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナで影響を受けた文化芸術の支援に向けた取組みとして評価したい。現場で、本補助制度を活用したとの声も聞いた。引き続き取り組まれない。 ・一方で、本補助金は、国などの補助制度に比べ、簡単に手続きできる仕組みとしているものの、未だ申請の要件を満たせないなど、支援の手が届いていない層もある。申請時にどのような条件を課し、どのように選考するのが地域における芸術支援制度の趣旨にかなうのか、定期的に見直しを図っていただければと願う。 ・ジャンルについて言うならば、音楽系を中心に制度の利用が多かった半面、美術系の申請数が少ないなど偏りがあった。 ・支援へのニーズを捉えて、次年度事業として予算規模を 2 倍に拡充し、申請手続期間や事業対象期間についても長くする方向で検討が進められていることは評価できる。実際に具体化されることを期待している。 ・今後は、幅広く支援が行き渡る制度となるように申請状況の分析を行うとともに、各芸術支援の関連団体や制度の状況も参照し、より良い支援事業となることを願う。
A	大阪文化芸術創出事業 （公演機会の創出）	<p>【概要】 新型コロナウイルス感染症と共存しながら、文化芸術活動の回復に取り組むため、大阪ゆかりのアーティスト・演芸人や楽団等の公演・活動の場を創出するとともに、府民への鑑賞機会の提供を図る。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大阪文化芸術フェスと併せて「大阪文化芸術支援プログラム 2021」として実施。 ・プログラム数：36 件、公演数：132 公演、参加者数：285,621 人（いずれも共催・参加プログラムを含む） ※新型コロナの影響により中止したプログラム（ULTIMATE JUNCTION）1 件、3 公演を含む ・来場者アンケートでは、イベントの感想について、約 9 割の方から「非常に良かった」「良かった」との回答があった。また、経済波及効果については、21.9 億円となった。 <p><主なプログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪を拠点に活動するオーケストラによるコンサート

		<ul style="list-style-type: none"> ・上方落語家総勢約 250 人が出演した落語祭 ・大阪を拠点に活躍する劇作家・演出家・俳優によるオムニバス演劇公演 ・大阪で活躍するアーティストによる現代アート展やライブペインティング など <p>○新型コロナウイルス感染症対策を図りつつ、大阪市と連携し、音楽、美術、演芸、上方落語、伝統芸能など幅広い文化芸術分野における公演の機会を創出するとともに、多くの府民に文化芸術に触れる機会を提供した。</p> <p>○落語祭、演劇、ダンス（中止）は、大阪・関西を拠点に活躍する演者等に幅広く参加を募り、多くの方々への支援につなげるとともに、これらの取組を積極的にプロモーションし、行政が主導で文化芸術活動の支援を行う姿勢をPRした。</p> <p>○各公演関係者からは、コロナ禍における公演開催に対する純粋な喜びの声があったほか、府・市が事業リスクの一部を担う仕組みにより、経営上の不安が少なく、安心して公演に集中できたとの声が多かった。また、一部の公演では、独自のワクチン検査パッケージ（ワクチン接種証明又は陰性証明の提示が参加の条件）の導入により、そのレギュレーションの試行とし、関係者が導入を検討するきっかけを作った。</p> <p>○公演は無料もしくは安価な設定とし、コロナ禍においても、府民に文化芸術に親しむ機会を提供した。来場者アンケートでは、「生演奏に感動した、アート作品により元気をもらえた、文化芸術の素晴らしさを改めて感じた。」などといった評価の声をいただいた。また、一部の公演では、府内の高校生や児童養護施設の児童などを招待し、一流の文化芸術に触れる機会を提供した。</p> <p>○アーティストや文化芸術団体等を対象に、今年度市が実施したアンケートにおいて、引き続き、創作発表の機会を求める声や要望が多かったことなどを踏まえ、来年度は市と連携して予算を拡充のうえ、コロナと共存しながら文化芸術活動の回復に取り組むこととし、プログラムをさらに充実（期間の延長やジャンルの拡充）して実施する予定。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナで影響を受けた文化芸術の支援に向けた取組みとして評価したい。 ・地域連携で工夫がみられるものの、プログラム全体を通じて目新しさが無く、ひと昔前の事業という印象を受ける。「分かりやすさ」や「親しみやすさ」に、大阪が発信する芸術文化の取り組みとして世界的に評価されるような先進性や社会性を加えれば、関西万博を迎える大阪に相応しいだろう。同時に、時代のニーズに応じたコンテンツの創出や人材育成も行えることになるので、若いプロデューサーの起用など将来展望も見据えた発想で取り組んでほしい。 ・なお、新型コロナ禍において急速に発展しているデジタル表現が見受けられないことは非常に残念。もっと、コロナ禍ならではのデジタルコンテンツや、オンライン手法を活用した展開が欲しいところであった。 ・事業の企画段階から、行政、委託事業者だけでなく、各分野の専門家や地域の人材など多くの関係者が参画する仕組みを構築するべく、アートマネジメントの創意工夫が必要であり、大きな視点から機構の設置なども考えてほしい。
A	大阪文化芸術創出事業（文化芸術の魅力発信）	<p>【概要】</p> <p>大阪が誇る上方伝統芸能や上方演芸をはじめ、音楽、演劇等、多彩で豊かな文化資源を活用した様々なプログラムを展開し、文化を核とした大阪の都市魅力を創造、発信する。</p> <p>【実績】</p> <p>○公演機会創出事業と併せて「大阪文化芸術支援プログラム 2021」として実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム数：36 件、公演数：132 公演、参加者数：285,621 人（いずれも共催・参加プログラムを含む） ※新型コロナの影響により中止したプログラム（ULTIMATE JUNCTION）1 件、3 公演を含む ・来場者アンケートでは、イベントの感想について、約9割の方から「非常に良かった」「良かった」との回答があった。また、経済波及効果については、21.9 億円となった。 <p><主なプログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪文化芸術支援プログラム IN 万博記念公園 ・府内各地の文化資源（神社や文化財など）を舞台とした公演（府内 5 か所） など <p>○新型コロナウイルス感染症対策（マスク着用、検温・手指消毒、大阪コロナ追跡システムへの登録勧奨な</p>

ど)を図りつつ、大阪市と連携し、大阪が誇る上方伝統芸能や音楽、アートなど、多彩で豊かな大阪の文化の魅力を発信した。

○万博記念公園では、大型アート作品や府が所蔵する現代美術作品等の展示、ステージ公演など、複合的な文化芸術プログラムを開催。特設ステージでは、音楽やダンス、コンテンポラリーサーカスなどを実施。府内の高校生にも出演機会を提供し、ストリートダンスや、日本センチュリー交響楽団とのコラボ演奏を披露した。また、広場では、大阪の伝統工芸品の制作体験などのワークショップの開催や、市町村とも連携した文化、観光 **PR** ブースを設置するなど、多様な文化芸術の魅力を発信した。その他、公園内の彫刻作品を巡るスタンプラリーを行うなど、コロナ禍において、公園全体を使い、自然の中でくつろぎながら、また、体を動かしながら文化芸術を楽しむ新たなスタイルを提供した。

○文化資源を舞台とした公演では、伝統芸能や上方演芸、クラシック音楽などのプログラムを5か所（水無瀬神宮・島本町、狭山池博物館・大阪狭山市、蟻通神社・泉佐野市、鴻池新田会所・東大阪市、楠公誕生地・千早赤阪村）で府内まんべんなく開催。演目に会場や施設にちなんだ内容を取り入れるなど、地域の魅力発信や、身近で文化芸術に触れ楽しむことができるよう取り組んだ。また、各会場では、府の文化・観光 **PR** や、地元市町村と連携したイベントも実施した。

例えば、蟻通神社では、有形文化財の舞殿を舞台に、聴き馴染みのある選曲による弦楽四重奏の演奏を披露。併せて、境内では、神社が所有する三十六歌仙図の絵馬（市指定文化財）の全部公開を実施。さらに、現代アーティストがこの絵馬を再現したアート作品を展示するなど、文化財を多様に活用したモデルケースとして、来場者からも大変好評であった。また、楠公誕生地では、くすのきホールでのクラシックとバレエの公演と、広場における千早赤阪村主催のイベントとの連携で、村の農産物を使ったキッチンカーや青空市場などを実施した。

○大阪を代表するコンテンツを一堂に集めた公演では、ジャズ、ブルース、ダンス、レビューショー、漫才、歌舞伎や能楽など、大阪で生まれ、築き上げられた様々なジャンルのプログラムを実施。第一線で活躍するアーティストと若手の有望株の共演等により、大阪が持つ多彩で豊かな文化の魅力を凝縮した一夜限りのプログラムを展開し、多くの観客にその魅力を発信した。

○来年度は、文化芸術フェスとしてプログラムの選択と集中を行う。大阪・関西万博を見据え、ノンバーバルなアートをはじめ、大阪が誇る上方伝統芸能や音楽など、多彩で豊かな文化の魅力を引き続き発信するとともに、府内各地にある文化資源や地域の魅力も活用して観光客を呼び込み、さらなる都市魅力の向上を図っていく。

【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】

<支援プログラム全般について>

- ・地域連携で工夫がみられるものの、プログラム全体を通じて目新しさが無く、ひと昔前の事業という印象を受ける。「分かりやすさ」や「親しみやすさ」に、大阪が発信する芸術文化の取り組みとして世界的に評価されるような先進性や社会性を加えれば、関西万博を迎える大阪に相応しいだろう。同時に、時代のニーズに応じたコンテンツの創出や人材育成も行えることになるので、若いプロデューサーの起用など将来展望も見据えた発想で取り組んでほしい。
- ・新型コロナ禍において急速に発展しているデジタル表現が見受けられないことは非常に残念。もっと、コロナ禍ならではのデジタルコンテンツや、オンライン手法を活用した展開が欲しいところであった。
- ・事業の企画段階から、行政、委託事業者だけでなく、各分野の専門家や地域の人材など多くの関係者が参画する仕組みを構築するべく、アートマネジメントの創意工夫が必要であり、大きな視点から機構も考えてほしい。

<文化芸術フェスについて>

- ・万博記念公園のプログラムについては、天候に左右される要素が大きく、今後は、そのマイナス面をプラスにできる表現を、スキルの高いキュレーターと一緒に取り組むのがよいだろう。
- ・一部のプログラムで、予定外に関係者の挨拶が多いようである。芸術鑑賞機会の提供とはどうあるべきなのか、出演者や司会者の力も借りながら再考してほしい。
- ・文化芸術活動は、複数年にわたる継続的な実施が重要であると過去に助言したが、今年度は単年度の事業であった。企画や準備をしっかりと行い、より良い文化芸術を府民に届けられるよう、複数年と単年度の差異を検証し、今後の事業展開の判断材料にしてほしい。

<p>A</p>	<p>大阪府芸術文化振興補助金</p>	<p>【概要】 子どもや青少年を中心とした府民に、優れた芸術文化の鑑賞機会などを提供し、芸術文化の振興を図るため、府内の芸術文化団体が行う活動に補助金を交付する。(上限 100 万円) ※大阪府文化振興基金を活用</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和 2 年度分 応募 36 件、採択 13 件 (追加) 応募 11 件、採択 5 件 ○令和 3 年度分 応募 46 件、採択 14 件 (新型コロナウイルス感染症の影響により、内定辞退や事業中止あり) ○令和 4 年度分 応募 32 件、採択 13 件 ○昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響による急な事業日変更にも対応することができた。また昨年度同様、コロナウイルス感染症対策経費を補助対象経費として扱い、弾力的に対応するよう努めた。 ○次年度の募集案内についても昨年度同様、コロナ対策として説明会を開催しなかった。代替として、オンラインで説明動画を配信したり、個別相談会を実施した。オンライン動画は初の試みであったが、事業者がいつでも何度でも確認できる点で良かった。また、動画原稿も公開することで、アクセシビリティにも配慮することができた。次年度は字幕をつける等、より見やすい説明動画を作成したい。 ○新規募集を増やすことを目的とし、補助金募集にかかる広報物のチラシデザイン・レイアウトを刷新した。主な変更点として、ラックに配架した時に目に留まりやすいよう、チラシのサイズを A3 の 2 つ折りに変更するとともに、新たなデザイナーに制作を依頼し、本補助金を身近に感じられるカラーとデザインに変更した。来年度は配架場所も工夫し、応募者確保・新規応募の増加につなげたい。 <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募件数は目標に届かなかったが、府内の文化活動が活用できる助成金・補助金として今年度は文化庁 AFF や大阪文化芸術創出事業(会場費支援事業)があり、申請が分散した可能性がある。コロナ前の件数に戻ったのではないか。次年度目標件数を考える際は考慮して欲しい。 ・オンライン説明会の開催、募集パンフレットデザインの刷新は、府民の当事業への認知と理解を促す第一歩となる。この 2 点は高く評価したい。次年度以降もオンライン説明会を実施し、遠方や時間の都合が合わない申請予定者にも届くようにしてほしい。またパンフレットデザインの見直しは注目を高めるため有効であり、新規申請者増加につながる可能性があるため今後も工夫を重ねてほしい。 ・コロナ前に実施されてきた事例報告会が開催されなかったことは残念である。申請予定者が他事業の取り組みを知ったり、自身の事業説明を行うことは、企画の言語化につながる。採択・不採択にかかわらず、補助金を得たい芸術家や団体が交流できるような機会を募集前 (8 月前後) に行うことが望ましく、そこにアーツカウンシルも加わり、企画の立て方、経費書類の書き方などのアートマネジメント指導もできれば良い。 ・今後の財源確保について制度も含め検討する必要がある。例えば各市町村の文化主幹や同公立文化施設と連携した共催事業への補助金などである。その制度づくりのパイロット事業を文化庁補助金等の活用も視野に入れ行えるとよいだろう。
<p>A</p>	<p>半額鑑賞会</p>	<p>【概要】 優れた舞台芸能・芸術を通常の半額料金で鑑賞する機会を府民に提供し、芸能・芸術愛好家の裾野拡大を図る。(※府、(公社)日本演劇興行協会、(独法)日本芸術文化振興会の 3 者の共催事業として運営)</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「府政だより」への掲載を予定どおり行った。 ○「府政だより」を見た府民から多数の応募があったため、抽選により当選者を決定した。 ○コロナウイルス感染症の流行により、一部の公演が中止となり、当選者には事務局(日本演劇興行協会)から返金対応を行った。

		<p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応を行いながら実施したことを評価したい。 ・府外の専門文化機関と連携し、大阪の文化芸術の鑑賞機会の充実向上を、予算をかけずに実施できる制度の整った事業である。平成22年度より取り組んできたとのことで、今後も続けてほしい。 ・少子高齢化に伴い、芸術愛好者も高齢層が増加する。最新の電子機器に慣れていない高齢の府民でも平等に受け取れる紙媒体である「府政だより」での周知は、プラスに働いており評価できる。 ・現在は、東京、福岡、大阪の、三都府県だけの取り組みであり、全国的にも貴重な取り組みを今後も続けてほしい。
<p>A</p>	<p>輝け！子どもパフォーマー事業補助金</p>	<p>【概要】</p> <p>文化を通じた次世代育成を図るため、府内の子ども（おおむね6歳から20歳まで）が参加し発表する活動を実施する団体又は個人に対して補助金を交付する。（上限 30 万円）※大阪府文化振興基金を活用</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度分 応募 24 件、採択 17 件 （追加） 応募 8 件、採択 4 件 ○令和3年度分 応募 29 件、採択 17 件 （新型コロナウイルス感染症の影響により、内定辞退や事業中止あり） ○令和4年度分 応募 33 件、採択 18 件 ○昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響により事業延期が相次いだが、事業者とこまめに連絡を取ることで急な事業日変更にも対応することができた。また昨年度同様、コロナウイルス感染症対策経費を補助対象経費として扱い、弾力的に対応するよう努めた。 ○次年度の募集案内についても昨年度同様、コロナ対策として説明会を開催しなかった。代替として、オンラインで説明動画を配信したり、個別相談会を実施した。オンライン動画は初の試みであったが、事業者がいつでも何度でも確認できる点で良かった。また、動画原稿も公開することで、アクセシビリティにも配慮することができた。次年度は字幕をつける等、より見やすい説明動画を作成したい。 ○新規募集を増やすことを目的とし、補助金募集にかかる広報物のチラシデザイン・レイアウトを刷新した。主な変更点として、ラックに配架した時に目に留まりやすいよう、チラシのサイズを A3 の2つ折りに変更するとともに、新たなデザイナーに制作を依頼し、本補助金を身近に感じられるカラーとデザインに変更した。来年度は配架場所も工夫し、応募者確保・新規応募の増加につなげたい。 <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン説明会の開催、募集パンフレットデザインの刷新は、府民の当事業への認知と理解を促す第一歩となる。この 2 点は高く評価したい。次年度以降もオンライン説明会を実施し、遠方や時間の都合が合わない申請予定者にも届くようにしてほしい。またパンフレットデザインの見直しは注目を高めるため有効であり、新規申請者増加につながる可能性があるため今後も工夫を重ねてほしい。 ・コロナ前に実施されてきた事例報告会が開催されなかったことは残念である。申請予定者が他事業の取り組みを知ったり、自身の事業説明を行うことは、企画の言語化につながる。採択・不採択にかかわらず、補助金を得たい芸術家や団体が交流できるような機会を募集前（8 月前後）に行うことが望ましく、そこにアーツカウンシルも加わり、企画の立て方、経費書類の書き方などのアートマネジメント指導もできれば良い。 ・子どもと文化芸術活動を行うことのポテンシャルを理解できていない申請が多くあるようだ。子どもの施策や教育や福祉の所轄課と連携し、子どもにとってのよりよい文化芸術を追求できる、補助金制度に刷新していく必要がある。 ・少子高齢化社会の傾向が強まる社会で、「文化芸術を通じた子供・青少年の成長する機会の提供」が、より豊かに効率的に行えるよう、計画的に改善して欲しい。
<p>A</p>	<p>オーケストラハウスの管理</p>	<p>【概要】</p> <p>オーケストラハウス（服部緑地内）について、計画的な修繕の実施等により、適切に維持管理を行う。また、日本センチュリー交響楽団の練習拠点として、オーケストラハウスの練習室の貸付等を行う。</p>

		<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オーケストラハウスの施設管理については、適宜補修などを行った。 ○補修工事（電力量計（電気子メーター）取替修繕、吸収式冷温水機補修工事、衛生設備・空調設備補修 等） ○定期点検（消防用設備機器点検、法定定期点検 等） <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は定期点検が予定どおり行われるとともに、オーケストラ側の要請による補修工事が順次進められている。ただ、施設の老朽化が進んでおり、今後も補修が必要な箇所が多くなるとみられる。 ・自然災害が増加する昨今、突発的な大規模修繕が必要になる事態も想定される。本事業の趣旨に鑑み、これからもオーケストラハウスが使用し続けられるように対応を引き続きお願いしたい。 ・新型コロナウイルス感染症の影響もある中、オーケストラにとって練習拠点が確保されていることは大きなアドバンテージであり、芸術の水準を高めていく上でも、また地域住民や子ども達など幅広い層に成果を還元していく上でも重要な機能を担っている。 ・今後も本事業の良さを生かして、楽団が充実した音楽活動を続けられることにより、大阪の音楽文化に資することを期待したい。
<p>A</p>	<p>メセナ自販機、OSAKAメセナカード、大阪府文化振興基金</p>	<p>【概要】</p> <p>寄附型自販機（メセナ自販機、次世代育成型メセナ自販機）や寄附型クレジットカード（OSAKAメセナカード）の普及促進、基金への寄附文化の機運を醸成する。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和3年10月に行われた「大阪府文化芸術支援プログラム in 万博記念公園」のコンテンツのひとつとして、次世代メセナ自販機の設置事業者によるワークショップを開催し、好評であった。設置事業者からの提案によるイベントの開催は初めてであったが、府の取り組みをアピールする良い機会となった。 ○府税事務所等にも積極的に働きかけを行った結果、R5年度から1台次世代メセナ自販機を増台できる見込みである。 ○年々、メセナ自販機の設置台数を増やし、基金への寄附額を増額できている。 ○一方、メセナカードについては、広報を含めた活動を進展できておらず、有効口座数が徐々に減少している。 ○翌年度以降も、自販機の設置増台へ向け、引続き活動を継続する。また、今後はメセナカードも活動を強化し、新型コロナウイルス感染症の影響が収まれば、営業活動を行っていきたい。 ○令和4年度以降、「企業版ふるさと納税」の対象となる予定であり、これにより府外の企業からの寄付の減税効果が大きくなる。このメリットを生かし、今後の営業活動に役立てる。 <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基金への寄付を増やすために、自動販売機の設置の推進を今年度も行い、さらには「企業版ふるさと納税」への登録手続きをしたことは評価したい。一方で、クレジットカード活用については、さらなる対策を練る必要がある。 ・次世代メセナ自販機の設置事業者による段ボールアートワークショップが、大阪文化フェスティバルでよい活用ができたことも評価したい。今後も、次世代メセナ自販機設置業者と、大阪府文化事業が連携するようにしていくとよいだろう。 ・企業や府民が、基金への寄付を通じて、大阪の文化芸術を支えていることがよりよく可視化できることが、今後のこの事業において重要である。活用の現場を担当者が訪問するなどして実例を把握しておくことが重要だ。基金は、単にお金を集めているのではなく、お金の循環を文化を通して行う仕組みであることを理解しながら、今後もすすめるとよいだろう。
<p>A</p>	<p>大阪文化再発見事業</p>	<p>【概要】</p> <p>府民に対する生涯学習講座等を実施する。（阪神奈公開講座フェスタ、おおさかふみんネット）</p> <p>阪神奈公開講座フェスタ：府及び大阪、兵庫の大学・研究機関（20機関）でネットワークを組み、府県を超えた良質で高度な生涯学習機会の提供を行う。</p>

		<p>おおさかふみんネット：府と府内市町村とのネットワークを構築し、広域的な学習機会の提供等の事業を行い、生涯学習の総合的な推進を図る。</p> <p>【実績】</p> <p>【阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット公開講座フェスタ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講座数：19 講座（うち 3 講座で動画配信も実施） ○参加者数：対面講座 489 人、動画視聴再生回数 45 回（※1 講座 500 円） ※新型コロナウイルス感染症の影響により、例年とは異なる会場で、講座定員も限定して実施。 ○昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、今年度は感染症対策をしっかりと行いながら、19 講座全て無事に開催することができた。 ○2年ぶりの開催であったが、前回の参加者にパンフレットを送付することにより、リピーターからの積極的な参加が見られた。また、講座の平均参加率は 72.2%と、過去 10 年間の中でも 2 番目に高く、受講者が講座を楽しみにしていた様子がうかがえた。 <p>【おおさかふみんネット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講座数：2 講座（うち 1 講座で動画配信も実施） ※泉南ブロック、府市ブロック（動画配信も有）で実施。 ○参加者数：対面講座 198 人、動画視聴再生回数 166 回（※無料） ○今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの講座が中止になった。引き続き、情報共有、広報で協力する。 ○動画配信については一定の参加者数が見込めたので、来年度以降も取り組んでいきたい。 <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において高齢者の主体的な文化を学ぶ場が減少する中、対面講座を実施できたことは大変良かった。参加率が高かったことがそれを証明している。 ・これまで、受講者の高齢化が課題だとしてきたが、若年層にこだわらずいろいろな参加者層の可能性を探って欲しい。 ・大阪文化芸術フェスに関連した講座として山本能楽堂の講座が好評だったと聞いた。今後も、出演ミュージシャンなどとの連携講座があるとよいだろう。 ・ふみんネットについては、動画の導入はとても良かった。そのノウハウを阪神奈にも生かすとよいだろう。 ・今後への意識調査で、ブロックごとよりも、市町村単位での実施に意欲的とのことであった。各市町村の意欲を尊重することは大切である。一方で広域自治体として、希望する自治体にはワッハ上方との連携事業を行ってはどうかという案もあると聞いた。どちらも進めてほしいが、忘れてはならないことは、補完性の原理に従い、広域自治体として、文化振興の取り組みが難しい市町村のエンパワメントである。万博に向けすべての市町村に文化講座を届けるといった連携のクラウドファンディングなど、現代的な方法を探るのも一手だろう。 ・ブロックごとの取り組みは、他府県でも行っている。毎年どのブロックを強化するかなど戦略性に活用している。参考にするとよいだろう。
B	府庁本館活用事業	<p>【概要】</p> <p>府庁本館等を文化芸術活動の場として提供し、府内で舞台芸術活動を行う団体の自主的な取組を促進する。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開催実績なし。 ○府民向けホームページをリニューアルし、会場の写真を掲載することで事業のイメージを想起しやすくした。 ○過去の出演団体に電話にてヒアリングを行ったところ、次年度に応募を希望しているとのことであった。 ○新型コロナウイルス感染症の影響により、庁舎で不特定多数の府民を集めるイベントを行うことが難しい状況であった。 ○次年度に実施する際は、事業の様子を撮影し、府の Youtube チャンネル等で動画を公開することで PR に

		<p>つなげていく。</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館活用事業は、歴史ある大阪府庁の建物を文化活用することで、大阪府民の文化に関するシビックプライドを高めるとともに、行政職員が日々の職務の身近に文化を感じることができる大変重要な事業。 ・今年度はコロナ禍により残念がら事業実施がかなわなかったが、会場写真をホームページに掲載し、次年度の活用について聞き取りをするなどアフターコロナに向けた準備をしており評価したい。 ・次年度は、youtube へ活用の様子を公開していくという方向性もよい。引き続き状況に合わせて丁寧に進めてほしい。
B	大阪文化賞・大阪文化祭賞	<p>【概要】</p> <p>大阪の文化芸術に多大な貢献のあった方等を顕彰する。(大阪文化賞、大阪文化祭賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪文化賞：直近の1年間において、文化芸術の振興に著しい功績のあった方もしくは団体を顕彰する。 ・大阪文化祭賞：大阪の文化振興の機運を醸成することを目的として、大阪府内で行われた公演の中から優れた成果をあげたものに対して賞を贈呈する。 <p>【実績】</p> <p>○大阪文化賞</p> <ul style="list-style-type: none"> R3.9 推薦受付（推薦件数 64 件 内府民分 33 件） R3.12 選考委員会 R4.3 受賞者報道提供 R4.3 贈呈式 <p>○大阪文化祭賞</p> <ul style="list-style-type: none"> R3.2 審査委員会 R4.2 運営委員会 R4.3 贈呈式 <p>○応募や募集について、大阪市と協力して報道等の周知を行った。</p> <p>○新たに府 Facebook で周知するなど広報に努めた結果、R2 年度に比べ推薦件数を 12 件増やすことができた。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顕彰は、大阪の文化芸術の人材の価値を認め、さらには、府民・市民に知ってもらふことで、大阪の魅力を文化芸術の側面から意識することができる事業として重要。 ・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり、制限が多い中であったが例年どおり賞の贈呈に至り大変よかった。特に、一般推薦数の増加は評価したい。 ・新しい表現方法が多数生まれているなかで、時代にあった方に賞を贈呈するには、幅広い世代の評価も必要であろう。今後、関西万博に向けてより賞の認知度があがるとよい。大阪文化の多様性を可視化し、賞の個性を強めるなど大阪ならではの審査基準を検討していくなど、賞の在り方を検討してもよいだろう。
B	山片蟠桃賞	<p>【概要】</p> <p>大阪の国際都市としての役割と文化・学術の国際性を高める著作と著者を顕彰する。</p> <p>【実績】</p> <p>○受賞者の選考に向けた調整や準備を実施した。</p> <p>○また、選考業務を進めるにあたり、以下のとおり状況に応じた柔軟な対応を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部審査委員の入替を実施 ・コロナ禍の状況を踏まえて一部リモートによる事前説明等を実施 ・審査委員会に国外からリモートによる参加を予定（審査委員1名） <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な文化賞として、コロナ禍においても着実に対象作品を応募や推薦で集め、選考委員会を準備し、次年度の授賞式に備えていることは今年度目標を達成できており評価できる。 ・リモートの活用など、今日的な ICT 活用をすすめており評価できる。 ・応募数が例年より少なかった点について、これまでの応募者数と広報数の推移を把握し、理由について検討していくとよいだろう。また、今後の募集広報に備えて、応募国の偏りや年齢層も把握しておくこともよいだろう。 ・これまでの受賞作は、日本文化研究の中でも、今日的でありながらも基礎的研究として評価できるものである。マイナーであっても、大阪の文化に影響を与えうる。この方向性は評価したい。 ・授賞式は、講演のみならず、関連のイベントを行うなどして盛り上げるのもよいだろう。
B	大阪府アーティスト情報発信事業（バンク）	<p>【概要】 アーティストの情報を広く府民に紹介し、地域や学校における府民の自主的な活動のサポート（申し出があったアーティストの情報を随時登録）</p> <p>【実績】 ○新規登録件数：個人 7 件 ○変更登録件数：個人 5 件、団体 4 件 ○登録削除件数：個人 15 件、団体 21 件 ○全登録件数：個人 62 件、団体 76 件 ○新規登録者数も微増ながら増加しており、ホームページのメンテナンス効果は一定見られる。 ○今後も定期的にメンテナンスを行い、府民が活用しやすいように情報提供する。 ○アーティストへのアンケート結果（もっと情報発信してほしい）を受け、更に府民に見てもらいやすい掲載内容にすることを目的に、各アーティスト 1 人（1 団体）につき 1 ページ、写真付きの掲載形式に変更作業中。3 月末日までに文化課 HP へ公開するとともに、enocoHP へのリンクを予定している。 ○次年度は、府庁本館活用事業など府が行う事業の情報を各アーティストに提供するなど、アーティストの活動の支援につなげていく。（3 年度はコロナ感染症の収束が見通せず情報提供しなかった） また、本事業の円滑な運営のため、他の自治体における類似事業について情報を収集し、連携の可能性について検討していく。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・登録団体・個人の紹介ページを写真付きのわかりやすいページにリニューアルしたこと、各個人及び団体の現況を調査し連絡先不通のところ等を削除したこと、など、アーティストバンクのページをより使いやすくしたことは評価できる。 ・少子高齢化に伴い、アーティストも高齢化の傾向にある。SNS 発信が苦手な世代も含めた幅広い対応は、功利的ではないが、自治体として公益性を追求できうる。 ・WS 事例や府内の同種取り組みの紹介もあるが、どの程度活用できているか不明である。アンケートでも周知や情報発信にニーズが高いとのことであった。予算がない中での情報発信への取り組みは簡単ではないが、大阪府の事業（府庁本館活用、補助金）等の案内を、登録団体・個人に積極的に行うことから始めるはどうか。 ・行政とアーティストが、共に文化振興を支えていく、基礎の一角であるとの自負を持って、今後も、定期的なメンテナンスや、現況確認などを行い、持続可能性のある事業として欲しい。</p>
B	上方演芸資料館（ワッハ上方）管理運営事業	<p>【概要】 全国で唯一の演芸資料館として、資料等の収集・保存・展示等の取組を通して、上方演芸の保存及び振興を図るとともに、府民に上方演芸に親しむ場を提供する。</p> <p>【実績】 ○収蔵資料を活用した展示を、以下のとおり 3 回実施。 特別展示「殿堂入り名人特別展いとしこいし」（令和 3 年 4 月 3 日～令和 3 年 8 月 31 日）</p>

		<p>企画展示「演芸人さんと言葉展」(令和3年9月11日～令和4年3月31日) 25周年記念企画「殿堂入り名人紹介」(令和3年11月10日～令和4年3月31日)</p> <p>○体験型講習会(ワークショップ)の開催(月2回) 毎月第1・3土曜日に体験型講習会(ワークショップ)を開催。 ※令和3年10月15日まで休止。16日から再開</p> <p>○有識者による上方演芸講演会「なつかしの浪曲資料」の開催(令和4年1月8日) ○在版放送局との共催トークイベント「至芸!いとこい漫才を偲ぶ」の開催(令和4年1月23日) ○アマチュア演芸団体等との共催事業の開催(適宜開催)※令和3年10月23日から再開 月1～2回程度</p> <p>○第24回上方演芸の殿堂入り名人表彰式の実施(令和3年11月9日) ○SNSフォロワー数(959人:令和4年2月9日現在) ※前年(令和2年度末)比 138%</p> <p>【大阪アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上方演芸資料館(ワッハ上方)は、大阪の文化の豊かさを発信し、大阪人の文化的な誇りを育む、重要な文化拠点であり、本来多くの来場者を迎えられる専用施設や、経験豊かな複数の学芸員による国内外の同種機関と連携した先進的な研究発信が期待される。施設や専門人材も限りがある中、その状況に合わせ、よりよく管理運営をしようと努力している。 ・昨年に続き新型コロナウイルス感染症拡大対策を行い施設運営をしていることは評価したい。 ・企画展では、演芸人の魅力が伝わる工夫があった。展示内の映像は、より閲覧者の視点にたった見せ方を期待する。 ・上方演芸を若い層へとつなぐ手法として、若者が興味をもつ展示テーマへのチャレンジや、インターンシップなど大学連携を期待したい。インターンシップなどを根付かせ、中期目標を持ち、まずは30周年に向け進めていってほしい。 ・有識者による講演会や、収蔵資料のデジタル化及びその利便性を高めたことは、新たな来館者を開拓するだけでなく、研究者にもアプローチができ、収蔵資料の効果的な活用につながる取り組みであり、限られた予算の中で小規模ながらも継続的に取り組む姿勢は評価できる。 ・アマチュア演芸団体との共催事業なども広がりつつあるが、広域自治体として府内を網羅しているわけではない。こちらも限られた予算ではあるが戦略的に行って欲しい。 ・ワークショップなどは、若いコーディネーターを起用したり、大きな団体に所属していない団体・演者を起用するなど、新しいイベントの企画にもチャレンジし、大阪ならではのイベントの可能性を探ってほしい。
C	江之子島文化芸術創造センター(enoco)管理運営事業	<p>【概要】</p> <p>アーティスト等が交流・連携・協働する拠点としての機能を強化し、文化芸術の創造及び振興を図るとともに、府所蔵美術作品の管理・活用や次世代の担い手の育成にも取り組む。</p> <p>【実績】</p> <p>○大阪の文化関係施設、団体、自治体、アーティストやクリエイターのネットワークづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・picnic&plays(enocoのバンパク)実施 《picnicチャンネル》総視聴数:658 《playsチャンネル》総視聴数:239 <p>○アート・デザインやまちづくりに関する教育プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人向けのカリキュラム「ぞくぞく・enocoの学校」(21回開催、15人参加) ・子ども向け次世代育成教育プログラム「こどもアート学科」(5回開催、のべ90人参加) ・enocoオープンアトリエ(11月～12月開催 大人84人、子ども91人参加) <p>○アートやデザインを通して地域の課題解決に取り組む中間支援拠点プラットフォーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪国際がんセンター 絵画の展示及び管理方法等の監修業務(年4回巡視、103点展示) ・大阪北摂霊園販売促進プラットフォーム型ワークショップ企画・運営検討業務 ・泉州アートサミット2021(enocoのバンパクで開催)

- 府所蔵美術作品の管理・活用
- ◆コレクション展（3回）
 - ・「彼我の絵鑑」 令和3年3月30日～4月24日／6月25日～7月3日
作品展示数：44点 来場者数：1,108人
 - ・「大阪府20世紀美術コレクションと小さき巨匠たち 展覧会をつくる展覧会」令和3年11月7日～11月27日
作品展示数：24点 来場者数：528人
 - ・「こどもアート学科 作品展」令和4年3月8日～令和4年4月10日
作品展示数：こども作品 約120点 コレクション 33点
 - ◆「コレクションギャラリー」（10月～）
展示回数5回 総展示数：30点（2月時点）
 - ◆展示風景の画像等を Web や SNS で発信する。
動画プログラム回数：4回 総視聴数 780
- 多目的ルーム（1～4）：利用率 52.6% 多目的ルーム（5～12）：利用率 51.8%（2月末現在）
- ・直前割引での利用：1件 若年層（25歳以下）割引での利用：5件
- 新型コロナウイルス感染症対策に基づく施設運営
- ・コロナによる閉館
令和3年4月25日～6月20日（緊急事態宣言）
 - ・新たな事業の展開方法
enoco のバンパクや、おしゃべりピクニックなどのイベントをオンラインで実施
展覧会のアーティストトークを動画で配信
対話型鑑賞会をオンラインで実施
美術コレクションのバーチャル背景画像を配付
アーティストへのインタビュー動画を配信（企画協力：大阪アーツカウンシル）
- 指定管理者選定
- ・今年度実施する次期指定管理者の公募に今後目指す方針について、令和2年度に実施したサウンディング調査参加者からの意見や、選定委員からの意見をもとに、募集要項に盛り込んだ。
 - ・次期指定管理者説明会参加者数 15社、応募数3者（全て共同企業体での申請）
 - ・次期に取り組む美術作品の活用や管理等の業務について、現在次期指定管理者に引継ぎを行うとともに、事業内容を協議し、計画の策定を進めている。
- 評価委員会実施回数：2回
- 来館者数（2月末現在）（延べ）：71,071人 所蔵作品活用点数（見込み）：1,018点 企画展（3月末現在）：3回／年
- 大阪の文化関係施設、団体、自治体、アーティスト等のネットワークづくりについて、「**enoco** のバンパク」では、10年間で **enoco** が培ってきたネットワークを可視化し、**enoco** という場から今後、さまざまな活動が広がっていく契機とすることができた。このイベントをはじめ、様々な事業に取り組んだ結果、**enoco** と創造的活動を協働した団体等の数は2月末で 185 団体となり、ネットワークに拡がりをみせることができた。次年度からは、新しい指定管理者を迎えセンターの管理運営を行っていくことで、新たな方向性も生まれるものと考えているが、これまでに培ってきた **enoco** のネットワークを引継ぎ、新たな先に繋げていくようにしたい。
- 「こどもアート学科」等の教育プログラムでは、参加者の募集方法を変更することで、これまでよりたくさんのお子さんが体験することができた。また、「**enoco** オープンアトリエ」では、子どもから大人まで様々な人が参加し、インターン等の学生が子どもに作品の創り方などをレクチャーするなど、学生自身にも良い経験となった。次年度以降も、様々な世代が交流しながら、次世代の文化芸術を担う人材の育成に取り組んでいく。
- プラットフォーム事業は、開館当初から力を入れていた事業である。府としては、これまで **enoco** が担っていた役割を、民間事業者や NPO 法人等様々な組織が担ってくれることを期待しており、今後はそういった外部団体と連携をとっていくことと、アーティスト等への相談窓口を継続していくことで、文化芸

術拠点としての機能を強化していく。

- 府所蔵美術作品の管理・活用について、「こどもアート学科」では、「こどもアート学科」では、題材として府所蔵のコレクションを活用することで、新たなコレクション作品の活用機会を創出できた。このことは、**enoco** に高い知見や経験のある学芸員がいたからこそその成果である。また、展覧会の展示風景を用いたバーチャル背景や過去の展覧会の動画など **Web** コンテンツを用いた作品の活用を通じ、コロナ禍で **enoco** に来館できない方や、遠方の方にも作品を知ってもらう機会となった。次年度は、**Web** 等を活用した新たな作品活用について検討し、実現に向けて取組んでいくとともに、新型コロナが終息した後に現物の作品を直に鑑賞することで一層作品の魅力を伝えられるような企画などについても、検討していきたい。修復等が必要な作品については、様々な対応方法を検討し、より良い作品の管理が継続できるよう努める。
- 貸館の運営については、好調な利用率を維持している。また、展示室の貸出については、新規の顧客開拓につなげるため、一昨年「直前割引」「若年層割引」の運用を実施しており、若年層割引は昨年度より増加している。今後もセンターの認知度向上とともに、貸館についても積極的に **PR** することで、利用率の向上に努める。
- 新型コロナウイルス感染症対策に基づく施設運営として、バーチャル背景や、展覧会の動画配信等、**enoco** に来館できなくても作品を楽しんでもらえる事業を展開した。
- 指定管理者選定にあたっては、文化振興計画記載の「府所蔵作品の管理・活用」「次世代育成」「ワンストップ窓口」のみならず、サウンディング調査や選定委員会で得られた意見を募集要項に明記した。また、府が重要な課題と考える **enoco** の認知度向上についても提案を求めた。次期指定管理者からは、様々な機関と連携したコレクションの活用や、次期指定管理者のこれまでの経験や強みを活かしたワークショップなどのイベントや、相談窓口、認知度向上などについて提案があった。
- 評価委員会では、委員の方から様々な貴重な意見を賜った。コロナ禍の中で、数値的な達成度だけでなく、実際に **enoco** に立ち寄り子どもたちの活動内容などをどのように評価していくかご議論いただき、定性的な評価も取り入れた。また、次期指定管理者が代わることについて、これまでの事業を引き継ぐだけでなく、新たな指定管理者の魅力が発揮できるような館運営を行うべきとの意見もいただいた。
- 府立の文化施設として、大阪を中心とした関西圏におけるアーティストやクリエイター・企業・大学等との連携・協働に取り組み、周辺地域や府民につなげていくことで、より多様で多くの人々に利用していただくことができた。新型コロナの影響が厳しい状況であったが、様々な工夫を凝らしたことにより、昨年度よりも来館者数を増加させることができた。また、作品についても安定的に活用することができた。
- 一方で、認知度の低さは課題であるが、次期指定管理者のノウハウや強みを活かした情報発信により、認知度を向上させる。
- 今後も **enoco** 設立の背景やこれまでの実績を踏まえ、次期運営目標に沿った新たな事業を指定管理者と共に取り組んでいく。

【アーツカウンシルからの主な評価・提案】

- ・現在の指定管理者による運営が最終となる本年度は、開館 **10** 周年でもある。これまでの活動による成果の可視化、次期指定管理者への継承など、大きな区切りとなる。コロナ禍にもかかわらず、本年度は、それに見合う有意義な活動が多数見られたことをまずは評価したい。
- ・次期指定管理者公募においては、大阪の民間の文化芸術関係者より、年間予算の少なさへの指摘を耳にした。現在の指定管理者はコロナ禍で来場者数が減少したものの、作品活用実績は例年と並び **1000** 点を超えており、安定した活用をしてきている。さらなる作品活用及び、文化芸術創造の拠点として認知度向上と、活動の活性化を求めるとなれば、アフターコロナにおいては年間予算増加も視野に入れるべきだろう。
- ・昨年度の事業評価で指摘した、大阪府 **20** 世紀美術コレクションの活用強化については、今年度は「子どもアート学科」のワークショップや関連展覧会、館内エントランスでの常設展示コーナー新設、「**enoco** コレクション・キャラバン」の記録集発行、作品や関連事業の映像アーカイブの制作・公開など、コレクションの公開・活用の機会を多数創出し、コレクションの認知度向上に大きく貢献したのものとして高く評価する。一方で、コレクション活用の根本的な課題である作品劣化への修繕等の取り組みが明文化できて

		<p>いないことは、次の指定管理者への引き継ぎにおいてマイナスになると思われる。知識に見合った人材の活用・選定が図られているか常に確認していってもらいたい。作品修繕は、館のみで行う以外に、例えば、府所轄以外の美術館や大学と連携した研究事業として取り組んだり、海外の博物館に見られるような修繕の様子を来場者も見れるコーナーをつくり府民への理解を深めるなどの方法もあるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府民や大阪に活動拠点を置く人々と共に豊かな文化芸術創造活動が育まれる館として、次期指定管理者の企業組織内で事業を完結させることなく、大阪の若いマネジメント人材を新たに掘り起こし、外部からの積極的登用など、一民間企業の成果ではなく公益性を重視する必要があるだろう。これまで構築してきた管理運営事業独自の評価委員制度を過去 10 年間よりも活発に使い、さらにはアーツカウンシルなどとの対話的視察も取り入れ、広い視野を持って館の管理運営に取り組まれていくことを願う。
C	府内市町村との連携	<p>【概要】</p> <p>府内市町村に対する様々な情報の提供、文化行政担当者間における意見交換や府内での先進事例の共有、市町村と連携した文化芸術事業の実施など</p> <p>【実績】</p> <p>○府内市町村文化行政主管課長会議を開催(令和 3 年 7 月)し、以下の内容について情報や課題の共有を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 5 次大阪府文化振興計画の概要説明及び基本計画策定の推奨 ・府文化事業の紹介及び協力の呼びかけ ・大阪アーツカウンシルの取り組みの紹介 ・府内市町村による先進事例の共有 <p>○府内市町村間の円滑な連絡体制の整備のため、府内市町村の担当者連絡名簿を別途作成し、共有を行った。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府内の文化行政主管課長会議を実施したことは評価したい。課長級は文化芸術の現場や行政職員を率いていく立場であり、基本的かつ先進的な文化政策についての知識や理解は、各市町村のよりよい文化推進体制に欠かせない。今後も年に 1 回以上実施すべきであり、2 回以上行う際はオンラインを併用するのも良いだろう。 ・会議の内容についても①大阪府の取り組み紹介、②大阪アーツカウンシルの講座、③大阪市の先進事例(子ども本の森)、④府内市町村からピックアップした一例(河内長野)とバランスが良かった。特に④は大阪府ならではの視点であり重要である。今後も、紹介される機会が多いとは言えない大阪中心部から遠方の市町村の取り組みを紹介するとよいだろう。取り組みの大小は問わない。例えば千早赤阪村の道の駅(食文化)、豊能町の吹奏楽と民話のコラボなど、地道な取り組みを、広域自治体として取り上げることで、市町村をエンパワメントしてほしい。 ・大阪アーツカウンシルは同会議で毎回何らかのプレゼンテーションを行うべきである。一方で「アーツカウンシル」のみの視点にこだわらないことも重要だ。特に、大阪市と同じくアーツカウンシルを持つ政令都市である堺市との関係は、会議での扱いを慎重に進めてほしい。大阪府として堺アーツカウンシルを取り上げる場合は同時に、芸術家のインキュベーションに取り組む大阪市立芸術創造館を取り上げるなど、戦略的なバランスが必要である。 ・課長級以外のネットワークも必要だろうとの視点もあるが、ふみんネットや、公立文化施設協会など、現場レベルの既存のネットワークがある。広域自治体である大阪府としては、自治体政策における補完性の原理も鑑みながら、課長級に焦点を当てる必要性がある。予算はついていないが大変重要な事業であることを忘れずに今後も取り組んで欲しい。